

第4回柴又観光まちづくり検討会 議事録

日 時：令和4年5月31日（火）19：00～20：15

場 所：旧川甚 新館 2階

出席者：宇野会長、天宮委員、石川委員、熊倉委員、齊藤（勝）委員、齊藤（國）委員、
下田委員、瀬尾委員、徳増委員、早崎委員、橋口委員
（五十音順）11名出席

事務局：中島観光課長、目黒都市計画課長、佐藤生涯学習課長、澁谷観光担当係長、
戸上郷土と天文の博物館長、観光課職員、生涯学習課職員、株式会社KITABA

議 題：（1）川甚跡地の活用イメージについて

（2）今後のスケジュールについて

<事前送付資料>

【資料1】第4回柴又観光まちづくり検討会資料

1. 開会

2. 議事

（1）川甚跡地の活用イメージについて

事務局より、資料1について説明

宇野会長：事務局より、「川甚跡地の活用イメージ」についてご説明いただきました。各資料において、新館の各フロア及び敷地の活用案を具体的にイメージしやすいよう、写真と共に「使い方シーン」「活用イメージ」を掲載いただきました。写真はあくまでイメージですので、写真の中身ではなく、活用の仕方として、こういったものが考えられるか、望ましいかという視点にてご意見をいただければと思います。皆様いかがでしょうか。1フロアずつ皆様のご意見をいただければと思います。まずは、P4の1階について、先ほど事務局からありましたとおり、例えば産直の野菜販売コーナーや参道商品を販売するかなど、色々な論点があると思いますが、1階の活用イメージについて、皆様からざっくばらんにご意見をいただきたいのですが、皆様いかがでしょうか。

委員：1階の産直野菜販売コーナーを設けていただく予定だということですが、以前も道の駅のような感覚で野菜を売ったら良いのではというお話をいただきましたが、残念ながら柴又に来る観光客の方は野菜をお買い求めになりません。以前もお寺の駐車場を借りて販売機会を作りましたが、地方から来る方は、うちの庭に同じものがあるから結構ですということがありました。そのため、野菜コーナーを設ける必要はないと思っています。

宇野会長：ありがとうございます。野菜を買くと、持って帰るのが結構大変になりますね。

委員 : 野菜販売は、これまで農協さんでやっている柴又の直売所が本拠地ですよ。野菜を求めるお客さんは、川甚まで来ないのではないのでしょうか。

委員 : はい。それに両方はできません。

委員 : 以前、寅さんまつりの時に朝市をやった時は人が来ましたが、今の農協さんがやっている柴又の直売所は、あの場所だからちょうど良いのだと思います。

委員 : 寅さんサミットにも一度出店しましたが、売れたのは肉まみだけでした。

委員 : やはり、この場所で野菜を販売するという事は難しいのではないかと思います。

委員 : 1階に限らないのですが、例えば1階の開放的な喫茶スペースなどのイメージがありますが、そもそもこの新館をどの程度リフォーム・増設できるのかを知りたいです。新しい増築物は建てないということですが、リフォームやちょっとした増設がどの程度できるかによって、イメージがだいぶ変わると思います。

また、観光案内の情報発信について、以前もお話したと思いますが、葛飾区全体としてのニューコンビネーションを図るという意味で、連結窓口として、おそらくやり方によって効果的になるとイメージしています。宿泊施設等も含めてですが、そのようなことを思いました。

宇野会長 : 先ほどご質問いただきました、開放的なテラスに関連して、新館をどの程度リフォームできるか、予算の関係もあると思いますので、事務局から説明をお願いします。

事務局 : どこまでリフォームができるのかという点につきましては、まだ設計前の段階ですので、まずはどのような機能が必要か、ゾーニングをどうするのかについてご意見をいただいた後、設計業務に入る考えです。

そのため、建物のリフォームをここまでできて、ここはできないなど具体的に決まっています。いただいたご意見を元に検討させていただきます。この段階で、どこまでできるというお答えができず、申し訳ありません。

委員 : 内容如何によって、予算がつくつかつかないかが決まるということでしょうか。

事務局 : この検討会の中でご意見をいただいて、川甚がこういうような空間であるべき、あってほしいとまとまった場合、それが実現可能なものであり、かつ現実的なものであればと考えています。

ものすごいコストがかかるなど非現実的なものは難しいですが、柴又にふさわしい空間にしたいというものであれば、私共も出来る限り、実現を目指していきたいと考えています。

委員 : ありがとうございます。

宇野会長 : もう一つ、観光案内は、葛飾区全体の発信拠点になると良いということでしょうか。

委員 : はい。

宇野会長 : ありがとうございます。他、何かございますでしょうか。

委員 : 1階に限らないのですが、1階～3階にわたって、色々な全国区の成功事例をあげていただいているのですが、初めの1年だけでなく、5～10年後の先のビジョンというか、先の世代を見越さなければ継続しないと思います。多岐に渡って色々な方々が使えるようになっていますが、具体的なビジョンというものでは、どういった所をターゲットにしているのかお聞きしたいと思います。

事務局 : 1回目の検討会からたくさんご意見をいただいた中で、色々な理想の形というものについてご意見いただきました。柴又というのは、これまでも「変わらない開発」や「環境との調和」などを大事にしてきました。中間報告の17ページにあるように、将来の社会状況の変化がある中で、この施設は今すぐ完成形を求めるということではなく、柴又らしくゆるやかに、今後の社会状況の変化に柔軟に対応し得るような整備をしていくという方向性で考えております。

当面どのようなところをターゲットにしていくのかという問題はあると思いますが、大きなものの見方としては、いま具体的に決めるより、ゆるやかな今後の変化に対応していけるようなものとしての認識で、進めさせていただきたいと思っています。

宇野会長 : よろしいでしょうか。他はいかがでしょうか。

委員 : 1階で区内産品の販売ということですが、葛飾区はすごく伝統産業が多種多様で、職人さんもたくさんいらっしゃって、魅力的なところだと思います。もし、伝統産業を販売するコーナーを設けるとしたら、ぜひ職人さんにも焦点を当てていただきたいです。作っているバックグラウンドが見えてくると価値や貴重さが見えてくると思うので、価値がより上がると思います。

宇野会長 : ありがとうございます。次の話題である2階の体験コーナーにも関係性のあるご意見でした。

委員 : 門前街の方の前でこのようなことを申し上げるのは失礼かと思いますが、柴又に来た人にとって足りないものは、お昼を食べる店がないという話が出たことがあります。鰻などたくさんあると思っていましたが、時間が集中するとお店に入りきれないお客さんが諦めて、それが不満だということを知ったことがあります。こちらにあま

りお客さんが来すぎると門前町の方々に怒られてしまうかもしれませんが、喫茶スペースだけでなく飲食ができる施設を充実されると良いのかとも思います。ただし、テナントを募集した場合、あくまでも観光地なのでお客さんが入るのがメインの土日だけとなった時、テナントが入ってくれるのかという心配があります。参道の店舗さんに支店を出してもらおうなど、そういうことも面白いのではないかと考えています。

委員 : 時期的なものがあり、正月などは門前のお店にお昼は入りきれないことも確かにあります。年中お客さんが来るわけではなく、土日でも雨が降るとイベントをやってもお客さんが来ないです。正月などたまたまイベントの時に混むだけで、普段はそれだけ来ているのかというと、なかなか難しいです。今のところ、寅さん記念館にカフェがありますし、山本亭にもあります。我々は売っている数、何がいくつ売れているかなどということが良くわかる訳です。新たにこちらの施設にも飲食機能を設けて家賃を払ってと考えたら、まず無理ではないでしょうか。我々も原価計算して家賃を払っています。確かに飲食機能は欲しいのですが、商売にはならないと思います。撤退されたらもっとみじめというか、嫌だなと思います。

委員 : それを考えると、次の話題になってしまうかもしれませんが、駐車場跡地について、前回の検討会では、バスの駐車場にはダメだという意見がありました。では、あそこをどのように再利用するかと考えた時に、先程説明がありましたが、バスの停車場、乗り降りスペースとして活用する場合、広大なスペースが空きます。そこを例えば、土日だけ今流行りのキッチンカーを呼び、場所代だけを取るなどが考えられます。キッチンカーには色々あると思いますが、若い人が集まったり、新たな観光客が来たりと柴又にとって良いと思います。

委員 : キッチンカーは1台に何百人来なければ、商売にならないのではないのでしょうか。

委員 : キッチンカー1台ではダメだと思います。

委員 : イベントとしてやるのであれば、何とかありますが、たまたま来てやっても難しいと思います。土手の上でよくやっていますが、あんなに忙しいと思っても、1日3万円か4万円くらいしか稼げないようです。そこに人件費もかかってきます。それだけ難しいので、土日に限ってやる、イベント時に来てもらうなどであればわかります。ただ、お客さんの取り合いになって難しいと思います。

委員 : しかし、それが定着することによって、若い人の足が柴又に向くかもしれません。柴又に行くと、草団子はもちろんですが、アイスクリームやパフェが売っていたりすると、新しい柴又のイメージができるのではないのでしょうか。キッチンカーが何台来てくれるかわかりませんが、以前、知り合いのキッチンカーをやっている方に相談してみたら、喜んで行きますと言っていました。例えば、売れない歌手を目指している人が、ギター1本弾いて広場で歌っていたら面白いと思います。そんな広場になった

ら、柴又のイメージが寅さんや帝釈天だけでない、また違ったイメージを創出できるのではないかと思います。

委員 : それはありだと思います。イベントの時にそういうことをやると、もっと盛り上がりますね。ただ、的屋のようなものが来て毎日居座られたら、それはそれで困ると思います。我々が今まで断ち切ってきたものがあるので、大事にしなければいけないと思います。それはきちんとルールを決めていけば、成功すると思います。的屋が入ってくるようなものにならないければいいと思います。

委員 : 意見をお聞かせいただいた中で、参道の間人としてお話させていただきます。やはり、事務局からの説明にもあったとおり、これだと決め切ってしまうのではなく、広場にキッチンカーが来るなど色々な要素を残しておいていただきたいと思います。初めからダメだと決めて制限するのではなく、要素だけでも残していただけるとありがたいです。個人的な見解ですが、コロナ禍でお客様の動向が変わっていますが、収まってくると人が出てくると思います。そうすると、自然と柴又の人の動きも変わってくると思います。今現在と1~2年後では、川甚のあり方も変わってくると思います。そういう意味で、色々な部分の必要性を残しておくことは大事だと思います。

先日、テクノプラザかつしかに伺う機会がありましたが、テクノプラザかつしかには250人くらいお客さんが入れるそうです。いま、葛飾区内で200人くらい入れる施設は一つもないのです。例えばそういった需要があるかもしれません。あるいは、ホテルの需要があるかもしれません。ですから、色々な需要があるということを前提に、決めないで要素を取り込める形でやっていけるのが一番良いと思います。事務局の原案は非常に良いと思うので、これをあまり規制することなく、ファジーな形で結構ですので、まずやっていただければと思います。

川甚が営業をやめたというイメージがずっと続いています。来た方が「まだ更地になっている」というイメージが長期間残ると、柴又にとって良くないと思います。一刻も早く、何でも良いのですが、次の形に動いているという風にしていただきたいです。そのためには、現状このアイデアが良いと思います。私としては、このまま進めていただいて、また時代のニーズに合わせて変化していくのが一番良いと思います。今日現在の形としては、非常に良くできていると思います。

また、一点お願いがあるのですが、参道商品の物販についてですが、できれば参道の商品は参道で買っていただきたい、こちらでは見せるだけにさせていただきたいです。このあたりの役割分担だけは決めておいた方が良いでしょう。

委員 : 全くその通りだと思います。参道と同じものを売っていたら、お客さんはがっかりするのではないのでしょうか。柴又では、各店舗それぞれの店が違うものを売っています。この門前のあり方というのは、成田など色々な門前のまちの人たちが柴又を見に来ているのです。成田山も最近が変わって、色々な人がお店を出してきて、今は成田山の裏の方も国際的なまちになり、新しいまちをつくってしまっているようです。少

し寂しいようでもありますが、古いまちより新しいまちの方が発展しやすいです。それは、どこでもそうです。古いまちは残すのが難しいのですが、みんなで協力して古くても良さをずっと残していくことが必要だと思います。

宇野会長： ありがとうございます。2階、3階の話にもなったので、1階についてはよろしいでしょうか。

委員： 1階についてですが、かなり今っぽいものを盛り込んでいて、楽しみだと個人的に思っています。ただ、中身がベタで、よそでもありそうだとすることが気になりました。中身がベタで、古いものを引き続き使い続けるというものであれば、例えば全て電子マネー決済ができる、日本で最新の決済システムを取り入れているなど、新しい技術を取り入れて昔ながらの物を使い続けるようなことがあると、メリハリがについて魅力的に映るのではないかと思います。特にタッチパネル式の情報コーナーは、地方に行くと良く見かけますが、実際にタッチパネルを触ってみて「ここに行こう」とはなかなかありません。みんなスマホで調べてしまいます。こういうところにお金をかけるのではなく、スマホで検索がすぐできたり、Googleですぐたどり着けたりするような情報設計にお金をかけて、観光客の方に楽しんでもらえるようにしていただけると良いと思います。

宇野会長： ありがとうございます。今DXの波が来ていますので、そういったものを活用できると良いですね。それでは、P5の2階についてご意見をお願いします。

委員： 確かに産業観光機能とありますが、区内製品の展示コーナーや製品等の販売コーナーというのは良くわかります。ただ、もっと若い人を集めるのであれば、若い人たちは色々な衣類や靴などを作って売っていますね。そういうものを定期的に取り入れると、若い人が集まるのではないのでしょうか。今、店を出したくても出せないのがネットで売っている人がいます。そういう人たちにこの場所をある程度開放し、一週間など期間貸しでオリジナルブランドを展示できるようにして、それを発信すれば若い人はどんどん来ると思います。今の葛飾の産業だけを紹介しても、人は来ないと思います。若い人は自分のブランドでバッグや靴、洋服などを作って、それがとても流行っています。なかなか出したくてもお店を出せない人もいますし、共同でお店をやっている人もいます。もっと開けた柴又になれば、そういう人たちにある程度場所を提供すれば、もっと若い人が来ると思います。

委員： 今のお話はすごく良いと思います。デザイン性の高い作家さんのものをバイヤーが仕入れて売るとか、そういう風になると良いと思っていました。個人作家の方が小さい場所を借りて出店するというのが多く、流行っています。ネットショップなどが当たり前になっているので、そういうものが柴又とマッチしていて、とても良いと思います。

宇野会長： ありがとうございます。若い人が作るものというのは、伝統工芸に限らずということですね。

委員： そうです。いつも同じものを展示しても面白くないので、変えていくと良いと思います。お客さんを集めるために区の伝統工芸市を柴又観光案内所でもやっていますが、産業を魅せる、産業を観光として紹介することにも着眼すると良いと思います。

宇野会長： ありがとうございます。ここは交流促進機能という役割もあるので、それも一つだと思います。

委員： 今お話を伺いましたが、やはりここは、柴又が重要文化的景観になっている場所ですので、そこをどこかで紹介するスペースは必要だと思います。先ほどのご意見はとも良いと思いますが、ここでなく別のスペースでも良いと思いました。ここはあくまでも柴又の重要文化的景観や川甚の歴史をわかってもらった場所にした方が良いのかと思います。そうしなければ、メリハリがつかず、各フロアが全部同じような建物になってしまうので、2階は「歴史と文化」、1階は「体験」「お土産」「情報発信」「喫茶」、3階は「若い人たち向けの活動ができる場所」といったように、1階～3階の色をしっかりと分けた方が良いのではないかと思います。特に、関東で2番目の重要文化的景観というのは、大変意義深いことと思っています。実は、重要文化的景観と言っても、一般の方には何かわからないと思います。そのため、ここは重要文化的景観というものを紹介していただきたいと思っています。

私もそうですが、何代も同じ場所で同じ商いを続けていられるというのは、帝釈天や寅さんのおかげです。こういった特殊性や変わらない街並みなど、なぜ残っているのかということを紹介いただければと思います。ですので、この2階はあまり盛りだくさんにせず、柴又のことをわかっただけ、重要文化的景観のことを他所から来た方に説明していただけるとありがたいです。

1階～3階の色をしっかりと分けた方が、より魅力的だと思います。

委員： 事務局の資料がよくできていて、どれをやってもいいという感じがします。やはり、絶対に頭に入れておかなければいけないのが、お客さんが来るのは土日であるということです。土日は、少くく天候が悪くても、間違いなく人が来ます。それ以外の平日をどのようにしていくかだと思います、最初から完璧なものを作り上げても、そう上手く人は集まらないと思います。個性的なものをこの中から選んでいくと良いと思います。地元の人が会合を開くスペースは、意外とないのです。ゆっくり物事を検討して決めるということがなかなかできないので、その機能を2階や3階に持ってきて、ゆっくりと話し合いができるという、そういう個性的なものを整備してほしいと思います。流れを見ながら機能を少しずつ変化させていくと良いと思います。途中でやめるものもあるでしょうし、思いがけず人が集まるものもあると思います。そういうものを見極められたらと思います。あまり完璧に作ってしまうと、人は飽きてしまうと思います。

委員 : 先ほどのお話に戻りますが、集客を考えると、若い人を呼び込むには若いものというのも合うと思いますし、葛飾柴又としての伝統と歴史も合うと思います。どのようにして観光客を取り込むかという、以前も「映え」ということをお話させていただきました。私はプロではないですが、結局「映え」というものは、来た人が映えていると思うものを発信するものです。勝手に発信されるものではないです。私はFacebookやTikTokをやっていますが、葛飾でものづくりをやっている人たちの物を見て、こんなものがあるのだと知ったりすることがあります。そういう発信源に力を入れると良いと思います。2階だけの話には収まらないですが、先程お話のあった1階のタッチパネルについては、外国人の人も使わないと思います。

施設運営は令和7年スタートという予定だと思うので、その頃にはコロナも明けていると信じたいので、外国人観光客がたくさん増えると思います。そうすると、参道もすごく人が増えると思っています。こちらの施設にもたくさん来ていただきたいです。そういったときに、どれだけ発信ができるかの準備ができているかが大事だと思います。先ほど、DXのお話もありましたが、とにかく発信に力を入れなければいけないと思います。時代の流れに合わせて色々変えていくということはその通りだと思いますが、都度発信をしないことには、人を呼び込めないと思いますので、そこは忘れないでいただきたいです。

宇野会長 : ありがとうございます。ものづくり、伝統工芸を含めて発信したくなるようなものを置いておくとか、そういった人を集めていく仕掛けが必要ということでしょうか。

委員 : そうですね。何を受け入れるかは見た人の主観によると思いますが、発信に力を入れることが大事だと思います。最近、ご信徒さんも減ったイメージあります。せっかく帝釈天があるので、そういった方も呼び込めたら良いと思います。

委員 : 子どもの目線でお話させていただきますと、先ほど京都のお話と歴史的景観のお話が出た中で、こんなに近くに歴史的なものがあって、こんなに素晴らしい文化財があるということ、修学旅行の中学生や未来を担う大人になっていく人たちに伝えていくという視点が大事だと思います。土日は観光客に来ていただくと思いますが、平日は、京都に行かなくても歴史的な文化財があって、伝統があって、より安全な柴又に、どんどん修学旅行を斡旋していくと良いと思います。若い世代に対して、柴又の価値を学校教育という形で伝えていくという部分に可能性があると感じます。

宇野会長 : ありがとうございます。まさしく教育旅行は平日ですね。
2階はよろしいでしょうか。次に、P6の3階についてはいかがでしょうか。

委員 : 修学旅行先で子どもたちが集まって楽しんだり、騒いだりするスペースがないということ聞きます。そういう時に活用できて良いのではないのでしょうか。私自身、関西の方の学校の先生ともお付き合いがあるのですが、東京に修学旅行に来て集まる場所がないと言います。ホテルはダメなので、そういう場があると良いという声を

聞きます。関西の中学校が柴又に修学旅行で来てくれた時、帝釈天に行って鰻を食べ、その後に集まる場所がないということで、店舗の2階を貸したことがあります。この川甚の3階でも、そのような使い方ができると良いと思います。柴又に修学旅行に来たいという学校を受け入れることが出来れば良いと思います。石巻など東北の中学校などが修学旅行でディズニーランドに行く際、よく柴又が中継場所となっています。行きや帰りに寄って食事してくなど、結構柴又に寄りたいと言ってくれる学校は多いです。柴又は、中継するのにちょうど良い場所だそうです。

宇野会長： ありがとうございます。それでは最後に、P7の敷地についてご意見をお願いします。

委員： 今まで柴又で行われたイベントは、帝釈天の境内で行うことが多かったです。帝釈天はもうすぐ400年と非常に価値のある建築物です。帝釈天で行っていた行事を、この川甚のスペースでやらせてもらおうと、より一層帝釈天も目立ちますし、こちらは人を呼ぶ施設になると思うので、こういったイベントスペースは良いと思います。この計画どおり、色々なことができる空間は大事だと思います。先ほどキッチンカーのお話もありましたが、私は何でも良いと思います。日々色々な取組をしていると、お客さんも興味を持って楽しめると思います。ここは車が通る場所なので、色々なことがやっているというのは良いと思います。

委員： この駐車場広場に限らない話ですが、柴又は帝釈天を中心としてこの施設もコンテンツの一つなので、食事もいいですし、キッチンカーももちろん良いと思います。これからインバウンドが復活することを頭に入れていただきたいです。

また、葛飾区はSDGsで盛り上がっているので、SDGsの観点も入れていただきたいと思います。

話が戻りますが、2階についてはアンテナショップとありますが、墨田区などではかなり高級品を売っています。江戸切子など、葛飾では2万円程度のものが売っていますが、墨田では30万円くらいのを売っています。この伝統工芸の展示販売は収益を上げることが目的ではないと思うので、フラッグシップ店として高級なものを置いても良いと思います。伝統工芸だと、恐らく職人会にオーダーすることになると思いますが、葛飾の若手の製造業が組織する「ものコト100」が、御徒町の2k540などに展示しているので、そういった所に声をかけるなどもしていただければと思います。

委員： イベント的にできるのではないのでしょうか。良いと思います。やはり、若い人に柴又に来てもらって楽しんでもらうということが大事だと思います。人を呼んでなんぼだと思います。そうすれば門前も人が入りやすいし、この施設にも入り、共存共栄で良いと思います。何でもやればいいわけではないので、精査をしていくと良いと思います。

委員 : 文化的景観のことでお尋ねしたいのですが、ここは第2のリングにあたりますね。そうすると、当然建築物や工作物について、柴又のイメージが踏襲されますね。その柴又のイメージが壊れてしまうというのが怖いと思います。柴又は変えない開発を心掛けています。今の日本はスクラップビルドで、どんどん古いものが壊れて新しくなっています。渋谷なども開発していますが、それと全く逆をいっているのが柴又です。変えないことで、時代がぐるっと回って柴又の魅力がまた発見されるということがあると思います。その原点を忘れてしまうと、せっかくの重要文化的景観の中の重要な構成要素の1エリアなのに、そこだけ浮いてしまうということになります。そのため、開発する際は、必ずそのことを忘れないでいただきたいです。参道から来て、ここだけイメージが違うというようにならないよう、いろいろな要素は盛り込んでも、トータルとしてそこは外さないでいただきたいと思います。

委員 : 柴又で1日遊ぶとなると窮屈というか、時間を持て余してしまうと思うので、しばらく地蔵を見に行ったり、水元公園に行ったり、銭湯に外国人を案内したり、御朱印を集めるのも面白いと思います。そのため、柴又だけにとらわれず、ここをポンプのような役割として、もう少し広く観光客が楽しめると思い、レンタサイクルポートはすごく良いと思います。先ほど情報発信のお話がありましたが、一時期は旅行される方はInstagramを使って写真を見てこの場所に行きたいと思う方が多かったです。しかし、この半年間で、15秒くらいのショートムービーのような動画、先程お話でも出ていたTikTokなどが、旅行に活用されるようになってきました。動画でどのようなものが映えるのかというと、やはり生きているものや動いているものを動画で撮るのが良いと思います。飾ってある止まった伝統産業を撮っても、そんなに映えないと思います。体験できたり、おせんべいを焼いている所を間近に見られたり、そういう動きを捉えられるのが良いと思います。

外国人がこれから入ってくると思いますが、土日にとらわれずに来てくれるのは、外国人観光客の利点だと思います。その時に、英語で対応したり英語表記をしたりするのではなく、逆に日本語しか通じない、日本語表記しかない昔ながらの地域、これは何だろうと思いながら楽しめる観光地になると良いと思います。

会長 : ありがとうございます。最近TikTokが多いですね。動画は短い方が、効果が高いと言いますね。

委員 : そもそもですが、4階はないのでしょうか。

委員 : 構造上無理ですね。3階の上は屋上になります。アンテナも立てられないほどで危ないので、活用はできないと思います。その分を、広場スペースで楽しんでいただくと良いと思います。

宇野会長 : それでは、活用イメージについて、本日皆様からいただいたご意見を踏まえ、更に検討を進めてまいります。

(2) 今後のスケジュールについて

事務局より、スケジュールについて説明

宇野会長： ただ今、事務局から、令和4年度の検討会開催スケジュールについて説明がありましたが、皆様何かございますでしょうか。

委員： 前回、建物を取り壊した後のエントランスを庭園にするという意見がありました。庭園はあちこちにあるので不要ではないかという意見も出ましたが、具体的にどのようなイメージを持っているのでしょうか。

事務局： 庭園や駐車機能、敷地全体の使い方については、いただいたご意見を元に、次回検討会までに、イメージをご提案させていただきたいと考えています。

3 閉会

宇野会長： ありがとうございます。本日の議題は以上です。以上をもちまして、本日の検討会を終了させていただきます。今後とも、皆様のご協力をどうぞよろしくお願いいたします。